

識別番号・報告回数	B-04025396	第2報	一般的名称	塩酸アママンジン	該当なし
担当医等の意見			報告企業等の意見		
<p>インフルエンザ脳症で新型が出現。従来の脳症と異なり、けいれんや意識障害などの症状が出ないまま急死するのが特徴。同様の症例6例中3例で剖検が行われ、いずれも脳全体の浮腫がひどく、星状細胞が変性していた。この変性も従来のインフルエンザ脳症にはなく、新型の脳症と結びつけた。</p> <p>結核の専門家からは薬の影響を疑う意見も出ている。</p> <p>1. 異物の侵入を防ぐ機能が未発達な子供の脳に薬が入り、呼吸中枢が抑制されて突然死した可能性がある。</p> <p>2. タミフル (同様の6例中4例はタミフル服用) を飲まずに新型脳症を発症した子もいる。6人以上にタミフルを飲んでいて従来型の脳症になった子供もおおり、薬では説明しにくい。現時点では可能性は全否定できないが、体質の問題が大きいのではないかと。</p>			<p>全ての自発報告症例は、報告の観点から本剤との企業因果関係を否定できないものとみなす (All spontaneous reports are considered suspected for reporting purposes.)</p> <p>薬剤と新型インフルエンザ脳症との関連性は、専門家の間でも検討中であり、現時点では企業としても関連性評価は困難と考える。(インフルエンザ脳症：未知・重篤 (死亡)・suspected)</p>		
今後の対応					
<p>本報告をもって特別な対応は不要と考えますが、今後とも類似の報告に留意し、慎重に対応していきたい。</p>					
送信者による診断名/症候群及び/又は副作用/有害事象の再分類			第一次情報源により報告された副作用/有害事象		
累積報告件数・使用上の注意記載状況等					
<p>1. 使用上の注意記載状況：(国内)記載なし / (CCDS)記載なし</p> <p>2. FAX報告日：2005年2月25日</p> <p>3. 詳細情報入手不能理由：協力が得られなかった。</p> <p>4. 未知累積報告件数：インフルエンザ脳症 (国内) 1件 (今回の報告を含む) / (外国) 0件</p>					
引用文献			資料一覧		
<p>・読売新聞 朝刊 1面 2005年2月24日</p> <p>新聞記事</p>					
MedDRA				Version (9.1)	